

乳癌の発癌および進展に関わる分子機構の解明に関する研究

1. 研究の対象

平成14年1月から令和1年12月までのおよそ18年間に診断・治療を受けられた乳癌疾患の患者さんの中で、診療録と病理検体から作成された病理スライドが利用可能な方が対象です。

2. 研究目的・方法

乳癌は女性の罹る悪性腫瘍のなかで最も罹患率が高く、また死亡率も年々上昇しています。乳癌には早期病変である非浸潤癌があり、また進行病変である浸潤癌があります。さらには前癌病変とも考えられている病変も知られています。しかしながら、前癌病変から早期病変、そして進行病変へと、乳癌がどのような分子機構で発生し、様々な組織形に分化するかなどは不明な点が多いです。今回の検討では、様々な良性病変、前癌病変、早期病変、進行病変をグループ分けして、その臨床病理学的特徴を比較し、さらに乳癌の発生や進展に関わる分子生物学的な検討を行います。

研究期間は研究承認後から2025年12月31日までを予定しています。

診療録（カルテ）に保存されている情報や、診療で用いられたのちに検査部等に保管されている病理組織検体を用いる調査研究ですので、研究のためにさらに追加検査や、新たな検体の採取を行うことはありません。また金銭的な負担が生じることもありません。

研究に協力いただいた方への直接的な利益はありません。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

通常の診療で得られる情報

臨床的背景：手術日、手術時年齢、閉経状態、腫瘍占居部位、両側乳癌有無、臨床的腫瘍径、cT、cN、cM、最終乳房術式、腋窩リンパ節術式、SLN同定法

病理学的背景：病理学的浸潤径、pT、pN、pM、組織型、ER、PgR、Ki67、HER2、Grade、LVI、SLN転移検査方法、SLN検査個数、SLN転移陽性個数、OSNA陽性個数、OSNA定量値（CK19コピー数）、病理陽性個数、nonSLN転移検索個数、nonSLN転移陽性個数

術後治療情報：術後補助化学療法（レジメン、コース数、完遂有無）、内分泌療法（レジメン、期間、治療状況、中止理由）分子標的治療（レジメン、期間、治療状況、中止理由）、放射線療法

フォローアップ情報：生存情報、最終生存確認日、死因、死亡日、転移・再発有無、再発確認日、フォロー中発症対側乳癌

4) その他がんの悪性度に関連するとみられる病理学的諸因子

試料

手術または生検時に作成された病理スライド、病理ブロック

4. 外部への試料・情報の提供

外部への試料・情報の提供はありません。

5. 研究組織

防衛医科大学校	病態病理学	津田 均
防衛医科大学校	病態病理学	熊澤 文久
防衛医科大学校	検査部病理	杉山 迪子
防衛医科大学校	病態病理学	山岸 陽二
防衛医科大学校	病態病理学	河野 貴子
防衛医科大学校	病態病理学	加藤 貴美
防衛医科大学校	外科学	古賀 麻希子
防衛医科大学校	外科学	永生 高広
防衛医科大学校	外科学	山崎 民大
防衛医科大学校	外科学	岸 庸二

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理のかたにご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

研究実施者所属：防衛医科大学校 病態病理学講座

主任研究者：津田 均

住所：埼玉県所沢市並木 3-2

電話番号：04-2995-1211 内線 2278

メールアドレス：hstsuda@gmail.com